

## コンセプトづくりのヒント

---

コンセプトはデザインのセールスポイントである。「おもしろくて」、「説得力のある」コンセプトをつくるために、調査結果をまとめながら、現在、その場所に何が欠けていて、何が必要とされているのかを考えてみよう。

さて、上記の作業を通してコンセプトを考えてみても、あまり「おもしろい」コンセプトを思いつかない場合もあるのではないだろうか。では、上の方法以外に、優れたデザイナーはどのようにしてコンセプトを思いつくのであろうか？おそらく、デザイナーは現地を訪れた時に、実現したい空間のイメージをいくつか思い浮かべ、そのイメージを分析的にたどりながら、重要なエッセンスを抽出し、自分のデザインコンセプトとしているのではないか。これは、いわば現場での「インスピレーション」をもとにしたコンセプトづくりと言える。

しかし、デザインを始めたばかりでは、実現したい空間のイメージ（インスピレーション）を簡単には思いつかないかもしれない。これには日頃からできるだけたくさんの空間事例を経験しておくことが大切である。

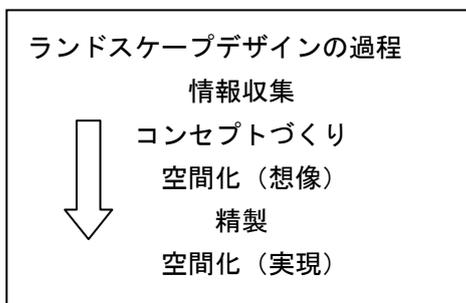
では、実現したい空間のイメージを少しでも想像できるようになるためのヒントとして、よいランドスケープデザインに必要な基本8項目を以下に説明しておこう。なかなかコンセプトを思いつかない場合には、以下の8項目を読みながら、実現したい空間のイメージを次々とスケッチして行ってみよう。また、もう一度現場を訪れ、この作業を行うのもよい。

そのとき、スケッチにして表現しようと思った「要点」は何なのかを考えて、ときにはメモも加えながら、思いつくままにいくつかのイメージを記録して行こう。そして、自分のもっとも実現したいイメージをひとつ選び、そのイメージの中に表現しようと思った「要点」は何であったのかを、突き詰めて考えてみよう。それが、自分の実現したい空間のコンセプトである。

この作業を行うとき、最初に思いついたイメージに固執する必要はない。自分の実現したいコンセプトが見つければそれでよい。

NOTE: 造園学実習1はデザインの過程を一通り経験することが一つの目的である。最後まで納得のいかないコンセプトしかつくれなかったとしても、来週の授業までには、自分のコンセプトを決めてしまうこと。その場合は、以下の基本8項目のどれか1つから派生させたコンセプトに決めるとよい。

デザインの仕事をしても、自分で自由にコンセプトを決められる場合は、ほとんどない。多くの場合は、クライアントの要望により、コンセプトが決められている。



今、自分たちがどの段階の作業をしているのかを再確認しておこう。

### よいランドスケープデザインに必要な基本8項目

1. 地形の特性を読む
2. 土地に固有の歴史を読む
3. 時間のサイクルによる変化を想像する
4. 時の流れによる変容を見てとる
5. 素材の活用を吟味する
6. 空間にかなうスケールバランスを考える
7. 周辺との関係をチェックする
8. 表現のテーマと意味・技法を吟味する

以上の8項目はランドスケープをデザインする際にもっとも基本的でかつ重要な事項として、造園学会分科会で議論され、シビックランドスケープ研究会（坂野裕人・下村彰男・鈴木誠・宮城俊作ら）が1997年に発表したものである。これらの項目を十分に理解し、空間のデザインとして表現できるようになれば、第一線のデザイナーとして活躍できることは間違いない。これらを早い段階で理解して、「街歩き」、「庭園・建築巡り」をしながら、良いデザインと悪いデザインを見分ける目を養っておこう。

出典：『シビックランドスケープ～公共空間の景をデザインする～』シビックランドスケープ研究会編、1997年、公害対策技術同友会発行